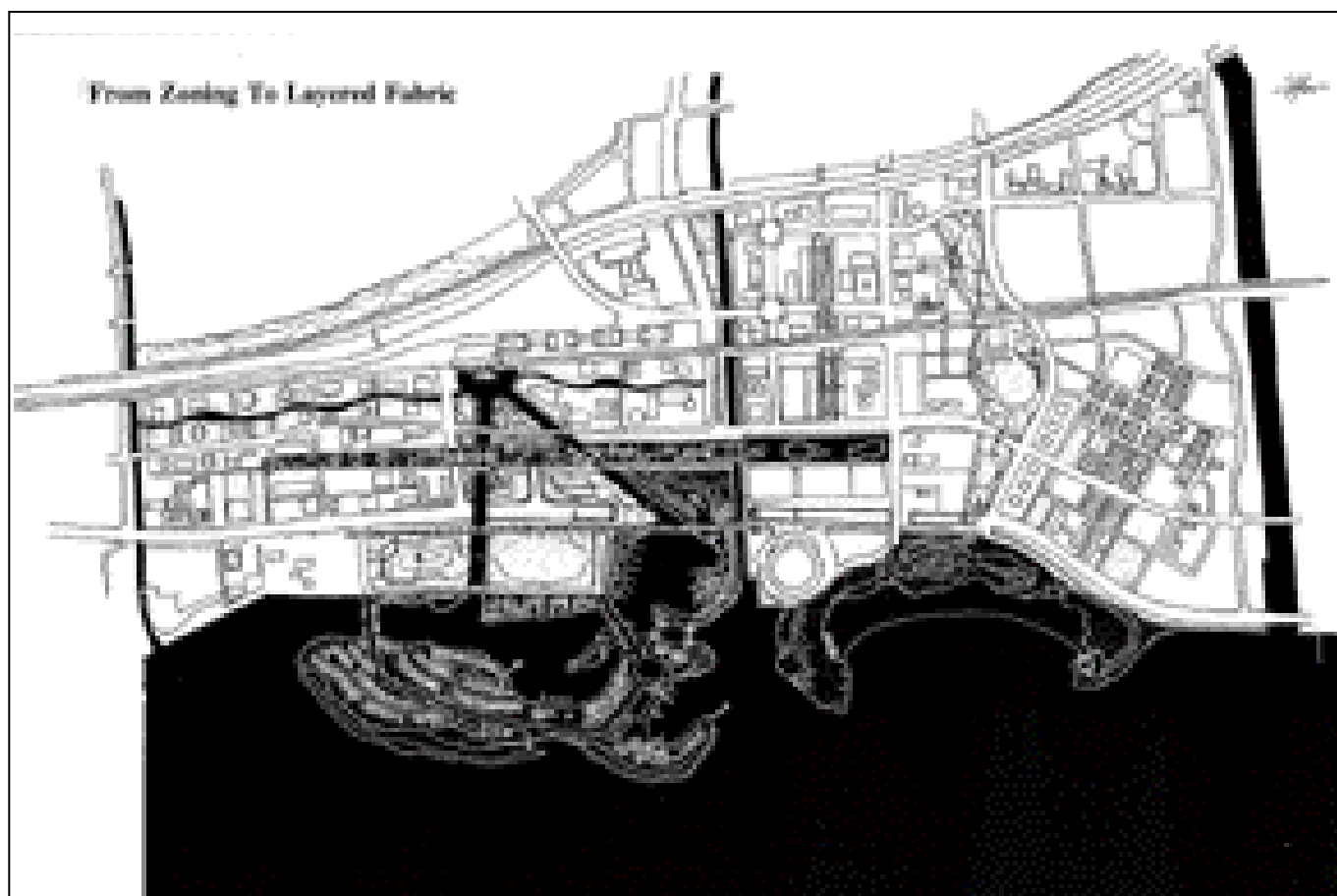
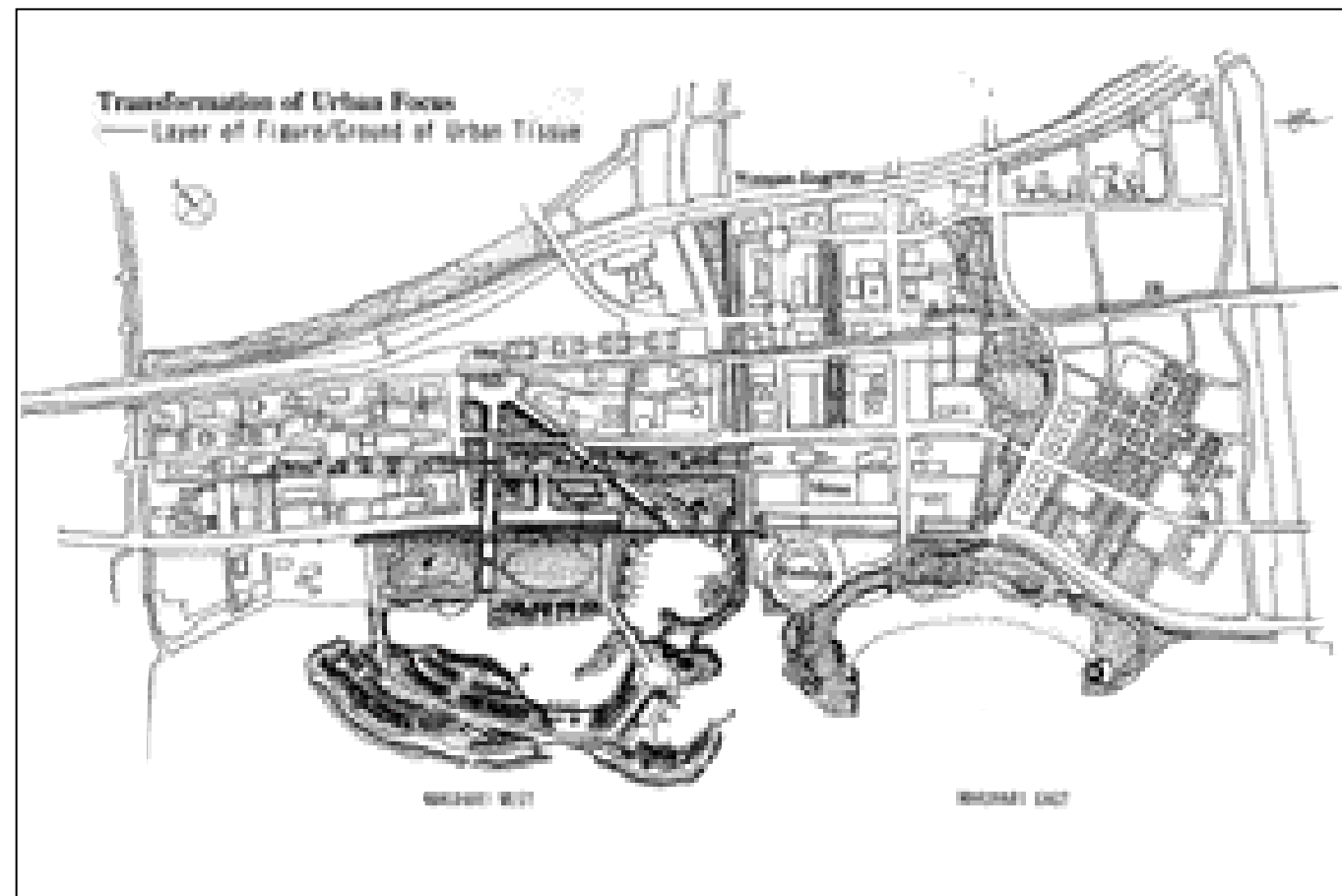


MAKUHARI "la cite douce"

幕張新都心にヒューマン・ルネサンス的手術を施す

彦坂 裕

Yutaka Hikosaka



都市をめぐる要素的な成功・失敗は語れても、総合的なそれを語ることは、不可能に近く難しい。なぜなら、総合としての都市は、すぐれて時間的存在にほかならないからだ。むしろ、時間的継起にしたがって、それをどのように書き換えていくか、ということの方がはるかに重要だし、面白い。

幕張新都心は、情報化時代を想定して創造されたにもかかわらず、その都市構造、その都市形成システム、そしてそのデザインは、工業社会的パラダイム、すなわち近代都市計画原理にのっていると言わざるをえない。この都市をより魅力的にするためには、同パラダイムの慣例である「部品交換」や「表層的メーキャップ」に拘泥しては、おそらく無理である。機械が朽ちていくのを何とか維持する技芸は、時間的蓄積と深みを湛えた都市の魅力の創造とは、対極にあるからだ。

臨海部を中心に、ここで試みられている構想は、海と人工環境の交錯、消費行動と生産活動の交錯、多種多様な環境をめぐる記憶の交錯、スケールと移動複合度の交錯を都市フォーカスの散種化と都市プログラムの重層化で実現し、インダストリー・センタードからヒューマン・センタードの都市空間へ移行させることである。都市は前時代のパラダイムでは、複合的な生産基盤であったが、そろそろ本気で、生活基盤・コミュニケーション基盤主導に修正してみてもはどうだろうか？

ひこさか・ゆたか 建築家、環境デザイナー、(株)スペースインキュベータ代表
1952年生まれ、空間設計、都市計画、環境等にかかわるコンセプトワークからデザイン、研究開発まで多層的な活動を展開。主な仕事に、EXPO'90・大輪会「水のファンタジアム」、日立市科学館の総合プロデュース他。関東学院大学、芝浦工業大学講師。NTTのインターコミュニケーションセンター、プログラム委員や『季刊インターコミュニケーション』編集委員を務める。主な著書に『シティダスト・コレクション』『建築の変容』『空間のランドデザイン』

ENGAGEMENT

CULTIVATION

MOBILE/
MOBILITY

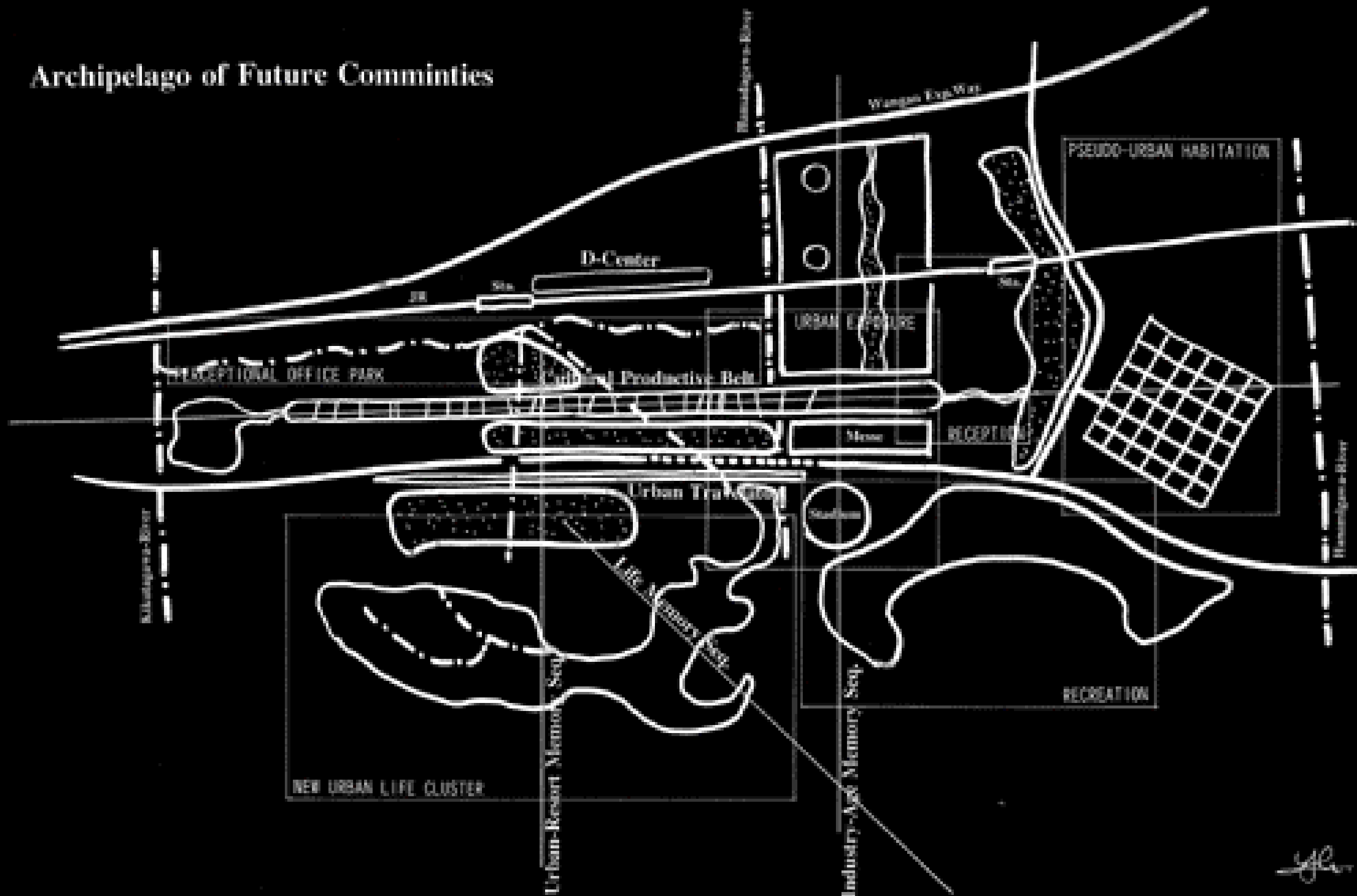
SEQUENCE

SELF-
ORGANISATION

LIFE DESIGN

NEW
PRODUCTIVITY

Archipelago of Future Comminties



VOID

UNDULATIONS

ISLAND

OPEN
PICTURESQUE

THINK-BELT

MICRO
TOURISM

MARINE
INDUSTRY

VIRTUAL PORT

OIKOS

NON-
REGULARI
SATION

PUBLIC
REALM

GEN

